

●イタセンパラの放流依頼に 3月30日

先の週刊ニュースでお知らせしましたがイタセンパラの生息環境がそのまま残されていたことが判明しました。トンガリササノハガイがたくさん生息していることがわかり、タナゴ類の繁殖の可能性が明らかになりました。したがって放流のための条件が一つクリア出来たように思いますので簡単には進まないと予想しますが、ダメでもともとと考えると放流を依頼に出かけてみようと思います。大阪の寝屋川にある生物多様性センターをおたずねいたします。

●木津川土砂部会開催される 3月4日

前回はコロナ禍の関係でweb 会議で行われました。議題は1年間の経過とこれからのについてで、冒頭議長の角教授の挨拶で28日のNHK・TVの朝番組で27日に行った中聖牛設置が全国放送されたと報告の挨拶がされました。続いて玉水浜での4群12基の中聖牛の設置や精華町20km付近での1群4基の設置について経過報告がされ、その後多くの先生方からの発言が続きました。

●中聖牛の披露の集い3月21日

来たる21日(月・祝)の朝9時30分から中聖牛のお披露目会が開かれることに決まりました。1目的は、大変多くの方々(竹蛇籠製作講習会=16日155名、中聖牛組立て=6日66名、栗石詰め=6日159名 合計372名)が中聖牛に関わっていただきました。竣工式にはあいにく出席できずにおられた方々が大勢おいでになります。又TVや新聞の報道で中聖牛に関心を持たれた人々にも一度ご覧になっていただきたい、また環境に負担を掛けない治水対策を多くの人に知ってもらいたいと考えて、披露の集いを開きます。余興としてウクレレでの演奏なども考えています。どなたもご参加いただけますのでお越しください。終了は12時を予定しています。

●2021年度木津川希少種生育調査管理業務の完了報告できる 調査と除草作業

里山の会が任意の団体として発足したのが1996年で、その当時から「この花なあに？」と植物に関心をもって活動を進めてきました。そしてそのデータを集めてきました。その行為と実績を国交省が認め河川協力団体として木津川希少種生育調査業務を発注されるようになりました。その業務報告として第1次分を提出しました。

●2022年度木津川希少種生育調査管理業務公募される申請期日3月15日まで

業務とする範囲は八幡市から木津川市加茂町の小谷までの範囲で24kmに及び40か所16000m²の面積での生育調査と除草作業になります。生育調査では植物によって生育時期が異なりますので手間がかかります。除草では開花時期や結実時期に差異があるので一筋縄に実施できません。絶滅危惧種(レッドデータ記載植物)なのですから一挙に一斉に除草作業を行うことはできません。いずれも慎重な時期選びが必要になります。そしてその結果を書類に写真と共にまとめ上げなければならないので非常に面倒なことになっています。しかしこうした努力が木津川の希少種を守り維持管理できているのです。2022年度も昨年と同様に維持管理業務として行うことを申請しようと思っています。申請書提出期限は3月15日となっています。

●フィランソロピー協会から寄付の申し出があり申請書類を提出

耳慣れない団体からメールが届きました。それが里山の会50万円を寄付したいので申請書を提出してほしいというものでした。私たちは25年前から活動を展開してきましたが、里山の会に多額の寄附をするからとの申し出が、それも全く面識がない団体からのものでしたから非常に驚きました。社会には様々な団体が存在するものだと思います。それがフィランソロピー協会でした。翌日事務所に電話がかかり、早速書類作成にかかり、不足箇所についてはご指導を得たいと連絡し、昨日最終書類の提出するところまで漕ぎつきました。それは、1馬坂川清掃作業 2親子花見乗船体験 3カヌー体験 4イタセンパラ復元のための水中ドローンの購入で申請することにいたしました。どうして里山の会に寄付の申し出をされたのかとの質問には、ホームページから見つけ出

したのだとの回答でした。

これまで私達は活動資金を得るために各種団体の補助金制度や交付金制度を探し出して応募して、プレゼンテーションを行い、厳しい審査を潜り抜けて資金を確保するもののだとの感覚でしたので非常に驚きました。

●毎年恒例の里山展が始まりました

3月13日まで 中聖牛 イタセンパラの復活 木津川の植物 里山農園と普賢寺の昆虫について展示されました。何よりも半年をかけて取り組んできた中聖牛がこれまでになく1群4基を作り上げられたことです。

そして誰も予想することが無かったコロナ渦での活動になりました。そして結成25周年記念の年になり、高齢化老齢化の時代を迎え大変活動が困難な1年でしたが、成果物を並べてみると少しずつではありますが、若いお母さんたちを中心にしたコーナーが設定されるなど進歩発展がみられる催しになっています。少しでも変化の息吹をくみとっていただければ大変ありがたいです。

●仮事務所に移転 3月21日実施

長年活動を支えてきた事務所の北側の農道が住宅地の拡充で改良拡幅するので買収話があって、いよいよ仮設事務所への移転の日が3月21日にきまり、パソコンなどの通信機器が移動させられることに決まりました。仮事務所は少し狭くなりますが夏を過ぎると新しい建物が復元されるものと期待しています。しかしこれまで通り低価な家賃での使用は難しく、財政の負担が重くなるものと予想されます。

●2021年度京都府交響プロジェクト交付金の事業報告書作成

2021年度の京都府の交響プロジェクト交付金申請は 1親子で遊ぼう学ぼう魚とり 2オオムラサキ観察 3京都府子どもの水辺交流発表会 4中聖牛4基設置 5里山農園を生かした自然学習 6地域説明会 7カヌー体験会の7事業でした。それぞれのイベントはコロナ禍の中でも中止することなくすべて実行することができました。これは理事をはじめ社員各位が力一杯の能力を発揮していただいた結果到達できたものです。今その最終報告書を有田さん中心にまとめていただいています。京都府からは期日には報告書を提出されるようにと連絡が届いています。

●トヨタ自動車環境部からの99万円交付金の事業報告書提出

2019年に申請が認められました。日本で最大の企業から認定されたのです。しかし課題に掲げたイタセンパラの復元を目指していましたが、具体的には思うほどには進展させることは不可能でした。特にコロナウイルスによってパンデミックが引き起こされ、第6波の感染拡大となりオリンピックまで延期されるになり誰も予想しない事態に見舞われました。こうした中での活動は困難を極め、予算執行期間は1年間でしたが、延長依頼で2年間に認められ、その間に2回の説明会や解説会、打合せ会を開催、その都度ごとに地元井手町に意義を伝えましたが、無関心を克服することはできませんでした。

しかし摂南大学や奈良女子大学そして福井波恵さんらは地道に調査を続けていただきました。また大阪工業大学の綾教授や富田林市の小川力也教師、河合典彦氏によるお話を伺い、また大阪生物多様性センターを訪ね学習に努めました。また大阪のイタセンネットの月例会に参加し見学交流を図りました。一方国交省淀川河川事務所の協力で玉水橋ワンド1.5km付近と山城大橋ワンド1.0km付近の樹木伐採を実施し密漁防止のための対策を行っていただくなどの協力が実現しました。普及のためのパンフレット（追加発行も含め2000冊）も編集し啓発普及に役立てています。

- 3月26日炭焼き釜入れ 3月27日炭焼き着火 いずれも朝9時集合 ご協力お願いします
随時実施 それまでに原木長さ調整と薪割りを行います。
場所：京田辺市打田 旧府道 炭焼き窯の小屋